

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	実質的にもコロナ感染症による制限がなくなった社会情勢下になった。当初の目標、指標の設定に変化がないことが評価できる。大切なことは、この指標、目標に変化がないことである。これによって一貫とした教育の基礎が確認できるところであるが、その点についても評価できる。この指標、目標が次年度には発展的なものになることを期待したい。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策も、継続的に軸がしっかりとしたものになっており、当初の方策が引き続き実践されている。生徒のための教育とは何かを考えられていることが伺える。目標達成のための方策は、学校運営の状況に応じて多彩に変化しうるものであるとともに、変化させなければならないものである。この点においても、状況による変化がなされていることが評価できる。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	自己評価の結果と分析も、客観性が維持されている。またその分析には緻密性もあり、次年度の教育に向けての分析であることが評価できる。教職員間での共通認識もなされており、各学年に特色のある学校であるための結果の分析であると思われる。次年度の教育に繋げていただきたい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	今後の改善策は、マクロ的にもミクロ的にも考慮されており、改善すべきところ、引き続き継続すべきところが、的確に考えられていると評価できる。改善すべきところの原因等をしっかりと教職員間で相互に共有し発展的な教育を志向していただきたい。理想と現実には時にそのギャップを否定できないが、理想なくして教育の発展はないと思われる。未来的発展的志向に期待する。
その他		生徒たちのための体験的教育とも言えるべき外部講師になる講義を多く取り入れていることは、非常に評価できる。生徒たちの思考にも多くの刺激を与えるものと思われる。また学校外の出来事、社会的事象に焦点をあてて、その対策を考えさせる教育がなされていることは特筆すべきことである。防災について、また外国の生徒たちとの交流についても、計画的に実践されている。本校の特色ある教育であると大いに評価できる。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>本校の取組について、肯定的な評価をいただいた。現在の取組を継続するとともに、各取組についてPDCAを確実に実施することを通して、次年度以降の教育活動全体の一層の充実につなげていく。</p> <p>【確かな学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教えて考えさせる授業」を柱に、考える授業づくりを推進する。 ・「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現する力」の育成を推進する。 <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内外での生徒の主体的で自治的な活動をさらに推進する。 ・積極的な肯定的評価・発信を行い、認め合い高め合う集団づくりを進める。 <p>【健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活をコントロールする力を向上させる。 ・保護者と協力し、スマホ等の適切な使い方について、繰り返し指導する。 <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の日常的なOJTにより、協働して教育活動を進める。
--------------------	--